昭和38年3月15日 第41号 (1)

THE KOHO NANKOKU

広報ナンコク

編集発行 南国市広報委員会 高知県南国市東崎1335 電451 月北印刷KK 電 379

人生訓

他人に小言を……
……言われたとき
腹を立ててはならぬ。……
……また腹のたったときに
小言をいってはならぬ……
（新島 襄）

南国市の概要

昭和34年10月1日発足	
面積	126.13平方粁
人口	男20.872人 女22.372人 43.242人
世帯数	10.843戸

国民年金の収納率 県下でトップ
社会保険庁から表彰

市のきよ出制による国民年金事務は、年金制度の実施以来好成績をあげており、このほど高田社会保険庁長官から、昨年度の厚生省年金局長表彰につづき二度目の表彰を受けた。

きょ出制の国民年金制度は、三十六年四月一日から実施され、市内での被保険者は強制加入対象者の九六パーセントの約九千六百人、人口の四分の一近い数をしめている。

しかし、そのうち生活保護者や貧困者で、保険料の免除措置がなされているものが千九百人ほどあり、このため実際には約七千七百人の人たちが、保険料を納付している。

こんど表彰の対象となったのは、三十七年度の十月検認（昨年四－九月までの六カ月）における保険料の収納率が、表彰規準の九〇パーセントを突破し、九六、二パーセントをあげたためで、三十六年度十月検認の七七パーセントに引き続き二度目の表彰となった。しかも、さる一月に集計された四－十二月の収納率は前納者もあって急速に伸び一〇九、一パーセントに達し、県下市町村のトップをしめる成績をあげたのも、担当職員の努力と対象市民の理解とが相まっていることにもよるが、それよりも保険料の収納事務にたずさわっている農協や、婦人団体連絡員等の協力によることが大きい。

また、保険料を前納するものが次第に増えていることはこの制度に対する市民の理解が深まったものとみられる。

なお、国民年金の事務は、市民課のなかにあって、係長以下四人の職員がこれにあたり、他市にくらべて二人少ないといわれている。

善意の現われ
名を秘した六千円

後免町で、むかし保護を受けていたという無名の人から、困っている人たちに差し上げていただきたいと、市長の許え六千円の送金があった。

早速市では、市福祉事務所に委託し、この善意ある人を調査したが、かわせの振り出しに高知市知寄町とあるのみで贈り主の氏名は判明しなかった。

同事務所では、いろいろ検討の上、安芸市と高知市にある各養老院で、余生をおくっている市出身のおとしより二十人を慰問することに決め、さる六、七の両日各養老院に出向き、この善意ある行為をつたえ慰問品を手渡した。

このときならぬ善意ある慰問を受けた老人たちは、無名の贈り主に心から感謝していた。

とかく自己本位になり、他人をかえりみるもののすくない現社会で、このような善意ある人が少しでも多くなり、明るい社会を築いてゆきたいものだ。

……早春の花・木蓮開く……

果樹振興で県・市に陳情
――果樹振興大会で決まる――

市果樹研究同志会は、このほど岡豊町公民館で振興大会を開き、スローガンとして

▽他産業に負けない経済を果樹で築く。

△十年間に五百町歩のミカン集団地をつくる。▽協業の力で貿易の自由化に対処する。▽団結を固め資金、資材、生産品の系統、流通を確立する。▽制度資金の金利引き下げの要求。

などをあげ、果樹主産地形成の問題、指導機関の充実について協議した。

この結果担当職員の増員、専門指導員の設置、技術と資金指導の円滑化、集団地形成、計画の樹立、融資制度の拡大と改正、農林、漁業資金借り入れの手続き簡素化などを市、県に陳情することを決めた。

見識深める婦人たち
市政会議

この秋にひかえた市議改選の際、りっぱな人物を選び出す心がまえをつくろうと市連合婦人会の〝市政会議〟は、婦人二十人、市議十五人（定員の半数）が出席し、このほど市会議室で行なわれた。

会は、午前十時から、午後三時まで、五百蔵貞子会長の司会により、地区代表の婦人十二人が教育、建設、産経、議会運営など、市政全般に亘って質問し、とくに小、中学校の教育異動にからんで教員の適正配置と、教育効果の引き上げ問題、議員給与額の五千円引き上げ、定員削減、公明選挙宣言にともなう、議員の心がまえを各議員にただすなど、かつ、議員の会議出席の状態などについて活発な質問がなされた。

この市政会議は、現職議員の市政に対する考えを、赤裸裸に知るとともに、市政に関する疑問点を質問、要望し、その答弁を求め市政や人物に対する知識を養おうというねらいのもとに開かれたもので、会議後婦人たちは反省会を行ない、会議の模様を各地区の婦人集会で発表することにしている。

同婦人会では昨年模擬議会を行なうなど、この種の催しは二度目とあり市政に対する関心をますます深めている。

奥地にモダンな部落
ダム補償ですがた変えた黒滝

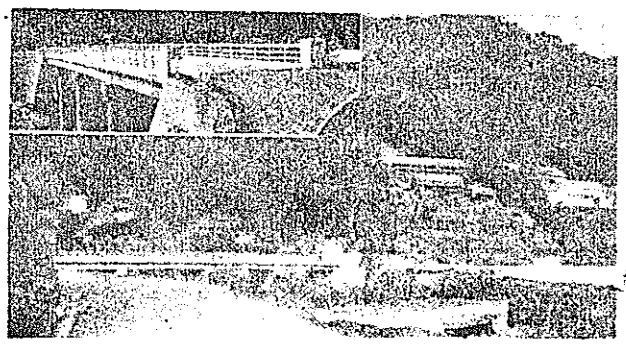
穴内川ダム建設に伴い、上流の上倉地区黒滝は水没被害を受けるため、約三十戸が新天地を求めて立ち退き約十戸が寄り添うように残留している。

こう書けば、いかにもさびしいが、事実はまさに逆である。

道路は前よりもりっぱな補償道路が布設され、老朽した木橋の黒滝橋はコンクリートの永久橋に架け替えられた。

このように同部落の様相は一変し、市役所から三十二キロ奥地にモダンな部落が出現したわけで、外来者のまなこを見張らせている。

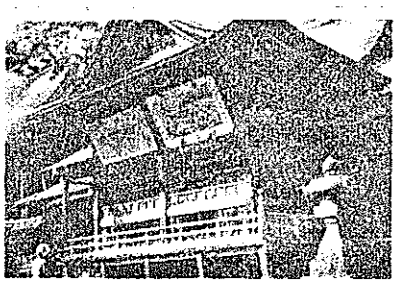
写真は新しいすがたの黒滝（中央右の長い屋根は学校）左橋向うの白い建て物は上倉農協支所、左上の橋は新装の黒滝橋で、下を大きくしたもの。



緊縮財政
市長と助役の給料据え置き

市の三十八年度予算は極度に切り詰める方針だが、人事院勧告に伴って職員の給料は一人当たり月額平均二千円余上がり、昨年十月にさかのぼって支給される。しかし市長月額五万五千円助役同四万五千円は据え置きとし、節減を図る予定。

観光地に仕上げる琴平山
株式会社をつくって



里改田にある有名な琴平山を、観光地として整備する計画は、市当局で練られているが、最近三和地区の有志を中心とする人たちが、企業として取りあげる計画を立てた。

琴平山頂には通称〝十市の金比羅さま〟として知られる琴平神社があり昔、沖を通る船の目標にした灯明台跡も現存し、全山を包む赤松や常緑樹がこの山ならではの風色をただよわせている。観光地造成は、株式会社を組織して行ない、資金はまだはっきりしないが、展望台、ホテル、県道と山頂を結ぶ観光道路など新設され、海水をホテルに引き上げて〝潮湯〟をつくることに特色を持たせることになっている。

写真は壮大な琴平神社の建て物で、右は本殿の一部。下は拝殿正面

議会へ質問書
市公明選挙推進協議会

市の公明選挙推進協議会（会長五百蔵貞子）は、このほど中町公民館で会合し、名ばかりの〝公明選挙都市宣言〟にならぬよう、覚醒運動に重点を置き、公明選挙のPRに努めることになり、次のことを決めた。

▼社会教育活動の集会などの機会をとらえて、公明選挙地区宣言に発展するよう市民の意識を高める。

▼公明選挙都市宣言の文字と、標語入りの標柱（約一米）を市役所、同支所付近の計五カ所に建てる。

▼市内の有線放送と市広報を活用し、啓発する。とくに公明選挙都市宣言の趣旨に賛成した人を明らかにするため〝協力者名簿〟を調製し、推進運動を浸透させる。

また、同協議会では、市議会に対し、〝法を守り正しい選挙運動を行う旨の申し合せか、宣言をして市民に決意を示せ〟、また〝演説会において、買収、供応などをせず公明選挙を実行することの誓をする〟以上二点についての質問書をさる十二日におくり、三月の定例議会で、意志表示をするよう求めている。

（写真は市役所前に標柱を建てる選管職員）

舟入川をきれいに
――井筋管理条例決まる――

南国市の都計は近く都計審議会によって検討されることとなったが、市は三十八年度を調査期間に当て、三十九年度から実施する方針を持っている。

都計費は三十七年度予算に八十三万円計上され、審議会委員も二十人選任されながら活動することにならず予算は更正して約八万円だけとし、審議会を開く時機を待っていた。

三月になって同会は開かれたもののこれという協議ができず散会したといわれる。

都市計画を検討
39年度から実施

職退奨勧は難航

市は人件節減のため、市役所職員のうち、四月一日に満五十五才以上となる三十三人にたいしさきに文書で退職を勧告した。

しかし現在のところ退職を申し出るものがなく、結局対象者との個別せっしょうに持ち込まれることとなった。

このため、市では四月の人事異動をひかえ支所の統廃合の問題とからんで、人事面での刷新が期待どうりに運ばないため、これが対策に苦心している。

由田セキ土功組合は舟入川の汚染をふせぐため、三月一日から管理条例を実施している。警察とも連絡を取っており違反すると科料や罰金を取られる。

禁止事項のおもなものは次のとおり。

▽竹木、土石、ごみ、汚物を捨てたり、または流れ込むところに置くこと

▽水路の付属物（通路をのぞく）に車馬を引き入れたり畜類をつなぎ、放し飼いしたりすること。

▽井筋の機能をさまたげまたは損傷し、損傷するおそれのある行為。

県道拡幅を陣情

奈路部落は同部落を通る県道の幅が狭く、大型の諸車が通るようになった現在は不便な上に危険も伴うと、このほど市当局にたいし改修を県に要望してほしい、と陣情した。

区間は約三キロという。